

知って当たり前

介護ガイド帳



上原喜光

〈父さん、仕事に行ってくるよ〉

〈あん？〉

〈仕事へ行くって、！〉

〈あん？〉

〈シ・ゴ・トだよ！〉

〈おまえ、そんなことより早く出ないと仕事に遅れるぞ〉

在宅介護をしていて一番困るのが、朝から大きな声を出して要介護者と会話をしないといけないことだ。要介護者はたいがい耳が遠いので、近くで聞いていると、朝から「ケンカ、しているように見える。〈ご飯、食べる？〉という問いかけも、大声だと怒っているように勘違いされます。

人は、大きい声を出すと意外に疲れる。朝から晩まで大きい声を出す人はなおさらです。私の家でも毎朝大声を出しているものだから、話をするだけで体力を消耗してしまいます。

最近、いい補聴器に出合

いました。名前は「みみ太郎」。

これがいい。わが家の義父も、〈とてもよく聞こえる。何より雑音が少ない〉と言っているほどです。

群馬県富岡市のシマダ製作所という小さな会社の製品ですが、世界初の特許技術という「人工耳介」機能が付いています。そもそも、人間の耳には音の大小に応じて自然に感度を調節したり、雑踏の中でも必要な音だけを聞き取る能力が備わっています。つまり、混雑する遊園地でも、娘の泣き声はすぐ聞き分けられるというわけです。人工耳介は、この人間の耳と同じような働きをするそうです。従来の補聴器はボリュームを上げると、雑音まで大きくなるのが難点でした。さすがは日本の技術力です。

耳が遠いのにムリをする必要はありません。わが家はこれで毎朝の怒鳴り合いがなくなり普通の会話ができるようになっていました。

（全国介護者支援協議会会長）

毎朝の怒鳴り合いがなくなりました